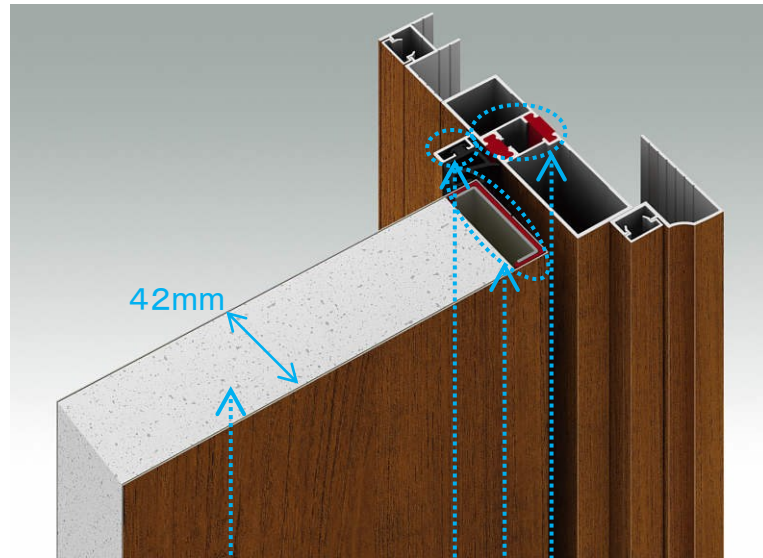


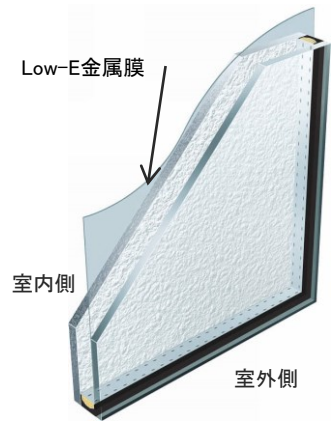
□ 断熱ドア D2仕様



断熱パネルドア
(42mm厚・
辺縁部熱遮断構造)

- +
- 断熱枠
- +
- Low-E複層ガラス

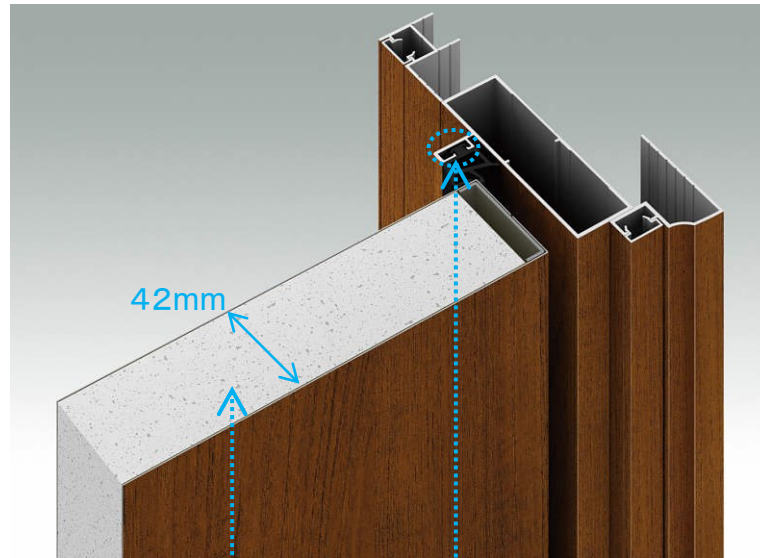
断熱材
気密材
辺縁部熱遮断構造
枠断熱ライン



複層ガラスの断熱性能をさらに高め
温室効果を加えたLow-E複層ガラス。
室外側ガラスの中空層側にコーティングされた
Low-E金属膜が太陽熱を取り入れ、
また室内の熱を外へ逃しません。

※ 袖FIX部のLow-E合わせ複層ガラスの場合、Low-E金属膜は室内側ガラスの中空層側に付きます。

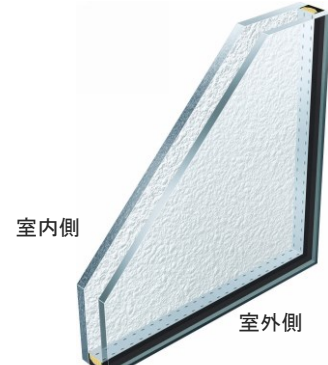
□ 断熱ドア D4仕様



断熱パネルドア
(42mm厚)

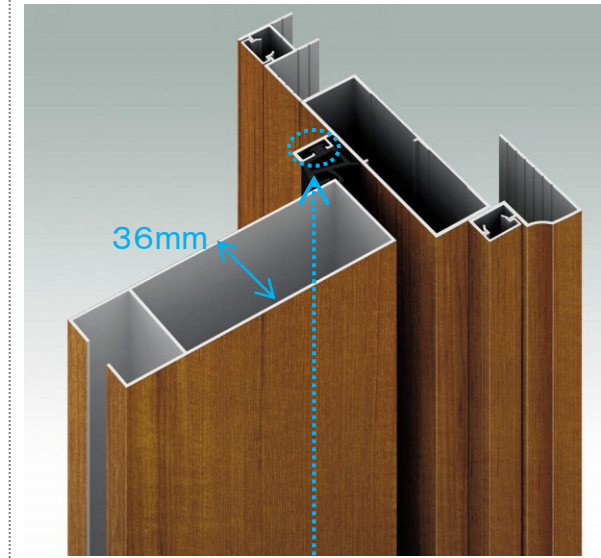
- +
- アルミ形材枠
- +
- 複層ガラス

断熱材
気密材



2枚の板ガラスの間に乾燥空気を密封し
熱の伝わりを抑えたもの。
ガラスを破るのに手間がかかり、
ガラス破片を取り除きにくいなど、
防犯性にも優れています。

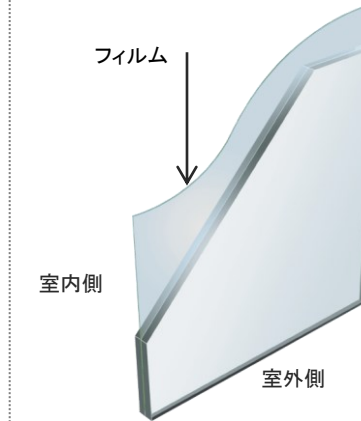
□ アルミドア



アルミドア

- +
- アルミ形材枠
- +
- 合わせガラス

気密材



ガラスの間に弾力性のあるフィルム
を挟み込むことで破壊しにくくなっ
ています。

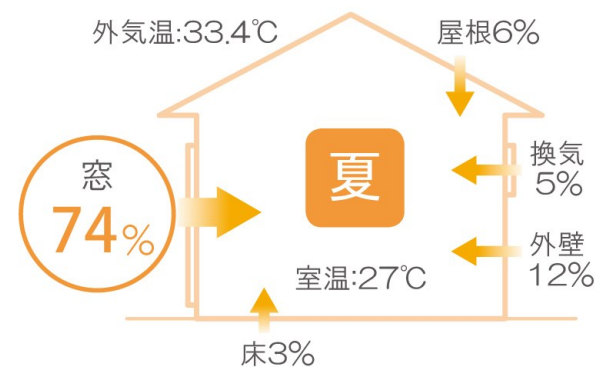
「開口部」は熱の出入りが一番多い場所です。

窓やドアから出入りする熱は、屋根や外壁よりもはるかに大きな割合を占めています。

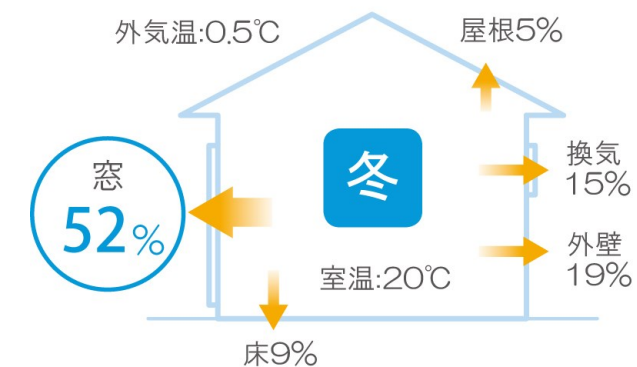
開口部を断熱化すると冬は暖房の効きが良くなり、夏は熱流入を軽減できるため、
部屋のいごちが快適になると共に、冷暖房費も節約できます。

- 【算出条件 窓からの熱の流入出比率】
- 使用ソフト：AE-Sim/Heat(建築の温熱環境シミュレーションプログラム)/(株)建築環境ソリューションズ
 - 気象データ：「拡張メダス気象データ」2000年版 標準年/(一社)日本建築学会
 - 住宅モデル：2階建て/延床面積：120.08㎡/開口部面積：32.2㎡(4~8地域)「平成25年省エネルギー基準に準拠した算定・判断の方法及び解説Ⅱ 住宅」標準住戸のプラン
 - 躯体：平成28年省エネルギー基準レベル相当
 - 窓種：アルミ(複層ガラス)

夏に流入する熱の割合 外気温 33.4℃
選定日：日平均外気温の最大日、8月10日14~15時、東京



冬に流出する熱の割合 外気温 0.5℃
選定日：日平均外気温の最低日、2月24日5~6時、東京



※商品の色は、印刷の特性上、実物と多少異なる場合がありますのでご了承ください。